



やめよう、歩きスマホ

朝の通勤途中のことです。



私が横断歩道で赤信号のため止まっていたところ、前方から20歳代と思われる女性がスマホを見ながら横断歩道を渡り切ってしまいました。この女性は、スマホを見ながらなので信号機が赤であることに気づかなかったのでしょう。街中で歩きスマホをしている人はたくさん見るのですが、このような人は初めて見ました。渡ってこられたときに「歩きスマホは危ないですよ」と声をかけたところ、「すみません」という言葉を残して行ってしまいました。そこは車が多く行き交う道路でしたので、事故にならずに本当によかったです。

みなさんもお存知のとおり、道路交通法が改正され（令和6年11月1日）、「自転車運転中ながらスマホ（スマートフォンなどを手で保持して、自転車に乗りながら通話する行為、画面を注視する行為※停止中の操作は対象外）」が、新たに禁止され、罰則の対象となっています。しかし、歩きながらのスマホについては、まだ規制の対象外なのです。

禁止されていないからといって歩きスマホをしてもよいのでしょうか。歩きながらスマホを操作することで周囲への注意力が散漫になり、歩行中の転倒や他の歩行者との衝突など怪我や事故の原因にもなるなど、とても危険な行為なのです。

歩きスマホの事故事例として、

- ・ スマホを見ながら歩道を歩行中、縁石に気づかずにつまずき、転倒し、腰を受傷した。
- ・ スマホを見ながら駅のホーム上を歩行していたところ、踏み外して軌道敷に転落し、腰部を受傷した。
- ・ 横浜市でスマホを操作していた男性が踏切内で電車にはねられて死亡した（男性はスマホを操作していたために、立ち止まる場所を誤ったとみられている）。

防府市では、歩きスマホによる死傷者事故についてこれまで報告されていませんが、全国に目を向けると、歩きスマホによる死傷事故は、2022年には全国で553件、内死亡6件、負傷547件（警察庁による）となっています。おそらく、今はもっと死傷事故は増えていることが考えられます。このような事故を起こさないようにするために、歩きスマホを止めなければなりません。

歩きスマホをどうしたら減らせるのでしょうか。「条例や法律を強化する」「罰則を付ける」「歩きスマホができないような機能を付ける」・・・等、いろいろな方法が考えられます。しかし、上記のような方策を考えるより前に、「個人一人ひとりが意識して、歩きスマホをしないように努める」ことが一番簡単で有効な方法なのだと思います。そして、子どもに歩きスマホをやめさせるには、「大人や親が歩きスマホをしない。良いお手本を見せる事」が大切なのです。

家庭で歩きスマホの危険性やどうしたら止められるかについて、子どもと一緒に考えてみませんか。